

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600391		
法人名	社会医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームかしわ 第1ユニット(1階)		
所在地	北海道帯広市西17条南1丁目5番地5号		
自己評価作成日	平成29年12月12日	評価結果市町村受理日	平成30年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600391-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者個々の持ち合わせている能力を最大限に生かし介護にあたるとともに、認知症の改善や悪化防止、強いては介護度の改善に努めている。また、利用者自身がゆったりとした快適な生活が安全に送れるよう全職員で支援するとともに、利用者家族の方にも安心して頂けるような介護提供を目指している。
- ・医療法人が運営するグループホームであり、医療と介護の連携が密接にとれ、利用者の健康、体調管理の面で安心して頂ける。
- ・地域との交流を深める為に、利用者と職員が共に町内会行事に積極的に参加しています。また、ホームの行事にも地域の方に参加して頂いています。
- ・TQM活動に参加することで、利用者さんの満足度向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR柏林台駅近くの閑静な住宅街に囲まれて母体社会医療法人が運営する総合福祉事業の中の本道2階建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護(グループホーム)事業所です。一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や喫茶店訪問、帯広動物園見物や弁当持参で紅葉狩り、児童公園でのピクニックや十勝川温泉で足湯を楽しむなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。また、オカリナやギター演奏等のボランティアの協力を得て家族交流会を開催し、本人と家族、職員との会食の機会を設け、本人との絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。地域との交流では、地域とつながりながら暮らし続けられるよう、町内会の運動会や野遊会、花見などに参加・協力しながら事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の他にも、当ホームの支援目標に基づいて、利用者やご家族がどのような介護を望んでいるのか、また、どのような介護が必要なのかを見極め、その人にあった生活が営めるよう支援している。	法人の理念、具体的な支援目標を掲げ見易い場所に理念を掲示し、ユニット会議やカンファレンス等で職員間でその理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方から定期的に野菜や果物を頂く機会もある。 花見、野遊会、廃品回収、運動会等町内の行事に利用者と共に参加している。	地域とつながりながら暮らし続けられるよう、町内会の運動会や野遊会、花見などに参加・協力しながら事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事に参加、交流する事で認知症介護の実態も見えて頂くとともに、ホームの現状を聞かれた時には対応し、町内の方々にホームの見学や訪問を勧めている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議では、ホームの入居や退居状況、職員の異動、その他ホーム内での出来事を積極的に公表している。また、会議の議事録をご家族にも配布し、会議の内容を把握してもらっている。出された意見や要望については、実現に向けて対処している。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の取り組み状況や行事、地域の困りごと等の具体的内容を話し合い、そこでの意見等をサービスの向上に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会や民生委員が運営推進会議のメンバーを務めており、様々な意見や要望の聴取に心掛けている。また、サービス提供上に起こる疑義等についても、市介護保険課等と連絡を密にし、意見や指導を仰いでいる。	市や包括支援センターとは、研修会参加や日常業務を通じて情報交換や助言等を得ながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない、今後も利用者本人の尊厳を重視し、身体拘束ゼロを基本とする。施錠については、ご家族、運営推進会議においてもご理解を頂いている。	身体拘束廃止委員会での内部研修会開催を通じて指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	如何なる理由があっても、身体的、精神的虐待はあってはならないと考えている。身体拘束も虐待の一部と考えており、高齢者虐待の研修会にも参加し、職員同士で注意しあえるようにしてる。法人の介護事業所合同の身体拘束廃止委員会に各ユニットから1名ずつ指名し参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人に関しては現在該当者はいないが、今後も事業や制度を学ぶ場を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書、入居契約書により、事前説明を行い、同意を得ている。また、入居に関する疑問や質問等についても尋ねるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等からの意見や要望については、謙虚に受け止め、検討している。直接口頭で言えない事もあると思われるので、投書箱を設置し、無記名で意見や苦情を受け付けている。	本人・家族等が意見や苦情等を言い表せるように投書箱を設置し、そこでの意見等を運営に反映できるよう取り組んでいる。また、家族交流会を開催し、本人と家族、職員との会食の機会を設け、本人との絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、ユニットリーダーを中心に、職員が意見や提案を受け入れる体制や雰囲気作りに心掛けている。また、ユニット会議の時などにも意見の聴取を行っている。	日常業務やユニット会議等を通じて、職員の意見やアイデア等を聞く機会を設けて、そこでの意見等を運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が働く意欲を長く持ち続けるために評価は必要なことである。法人は、介護職員処遇改善交付金等の制度を積極的に活用し、介護職の賃金アップ、キャリアパス制度等できる限りの環境・条件の改善整備を行い、活気あるホーム作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修や計画作成者研修、介護スタッフレベルアップ研修等、管理者はじめ一般職員に対しても様々な研修会や講演会に参加できるよう努めている。また、研修内容を全職員把握できるように、研修報告書を提出しユニット会議で発表を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の高齢者グループホーム協議会に加入し、様々な情報収集や研修会等へ参加している。また、同業者との交流(情報交換等)も行っており、他事業所の良いところ、優れている点を取り入れるよう心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族と打ち合わせし、ご本人も来施設いただき、要望を伺うが、利用者ご本人から要望等を聴取できないことも多々あり、センター方式を利用し、入居前にご家族に情報記入を依頼している、また、他の関係者にも情報を依頼している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	項目15と同様であるが、利用者ご本人の他にキーパーソンとなるご家族等から介護サービスを提供するにあたっての様々な要望や意見など、必ず聴取するようにしている、又、情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に重要な事は、利用者、ご家族が当該介護サービスや当ホームに対して、どのような介護を望んでいるのか聴取し見極める事が必要である。そのため、初期相談時には、管理者、介護支援専門員、計画作成担当が必要としている介護を模索、検討している。また、医療連携等の他のサービスが必要か否かの判断も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何気ない介護のなかでも、職員と利用者が一緒に喜び、時には涙する場面もあり、それが認知症介護の素晴らしいところでもあり、職員も意義をもった介護に係われていると考える。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方にホームの生活状況や介護状況を知ってもらう為にも、ホームでの出来事を報告している。また、ご家族の都合が許せる限り来訪してもらったり、また、入浴拒否の強い方には、ご家族より声掛け、誘導をして頂くことで、安心感に繋がっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの友人や知人の訪問、電話、手紙等で馴染みの関係を継続している。また、社会活動が続けられる様、支援を行っている。	家族会の開催や散歩、買い物や喫茶店訪問、帯広動物園見物や弁当持参での紅葉狩り、児童公園でのピクニックや十勝川温泉で足湯を楽しむなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の生活やレクリエーション等を通じ、交流を深めてもらう機会を作ったり、声掛けを行っている、また、気の合う利用者、トラブルのある利用者を見極め、座席の配置や日常生活の中での声掛け等に気配りし、共同生活が営めるよう支援している。また、ユニットが違う入居者様同士でも、気の合う方がおられ短時間でも交流出来るよう日常的に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際に医療機関での長期治療や療養が必要とされ退居された方もいるが、その後の介護相談に応じる旨の説明を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間の経過とともに利用者の要求や介護方法が変化すると思われるが、どのような介護が本人に必要なのか、ご家族と職員が相談しながら本人本位の支援に努めている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、ユニット会議で職員間で情報を共有し、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、以前、利用していたサービス事業所より情報提供を頂き、それぞれの情報を総合的に判断し、スタッフ間で共有し対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後しばらくは、これまで得られた心身や生活等の情報と照らし合わせ、実際の目で確認した現状とを比較し、総合的に状態を把握するよう努め随時又は定期的に必要であれば介護サービスの見直しを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開催し、介護実施上の問題点や課題の検討を行っている。また、一担当者が詳細に利用者の把握を行う担当者制を設けており、介護計画の見直し時はご家族の要望、利用者本人と、各担当の意見を再確認し適切な介護サービスの提供に努めている。	本人・家族からの意向や要望、医師・看護師からの指導や助言、ユニット会議やサービス担当者会議で職員の意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに介護記録を作成している。これとは別に、申し送りノートを作成し、情報の共有化に努めている。介護計画の見直しについては職員全員で気づきや工夫などを提案し、見直しに活かしている。また、必要に応じてユニット間で情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを重要視し、本人の意向も取り入れながら家族の状況には柔軟な支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望のある利用者には訪問マッサージの対応、また、ホームでの行事等にボランティアの方による唄や踊りを楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を確認し、希望の病院をかかりつけ医としている。通院時には、日常の身体状態や生活情報を提供させて頂くなど関係構築に努めている。系列病院以外の医療機関の受診時は、主治医宛に文書で報告、相談を行い、必要時にはスタッフも同行している。	母体が医療法人であり、医師や看護師が訪問しており、健康管理や医療相談、急変時の迅速な対応など適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人及び家族等の希望する納得が得られたかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携として、系列病院から看護師の派遣を受けている。日常において利用者の容態に変化が生じた場合は、看護師や主治医、又は関係する医師に報告、相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に当たってはご家族や医療機関と相談し以後の対応を協議している。利用者やご家族が安心して治療に専念できることを基本としており、退院し当ホームに戻る事が出来ると判断される場合は、3ヶ月の猶予期間を持って対処している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を制定し、ご家族にも文書にて説明している。重度化した場合や終末期においてはご本人はじめ、ご家族や主治医、協力医療機関と慎重に協議、対応している。現在の所、終末期をむかえた場合は、ご家族に了承の下、医師の判断で医療機関に入院（退居）している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から、本人・家族等と話し合い、事業所でできることを十分に説明しながら指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対処法は、同事業所で年1回の研修会を行っている。また、緊急時マニュアルをスタッフの目のとどく所に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通し、地域住民の方々の手助けが得られるようお願いしている。災害の種類や大きさにより、緊急連絡網にて召集がかけられる体制を取っている。年2回の避難訓練と防災自主点検を毎日実施し、災害に備えて、備蓄品も用意している。地域の避難場所も確認している。	緊急時に協力が得られるように地域の人々に働きかけを行い、緊急避難場所の確認もしている。また、昼夜を想定した火災避難訓練・通報訓練、救急救命講習を定期的の実施している。	災害時に幅広い地域住民等と連携・協力体制の構築を検討しているので、その実践に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理マニュアルを基にして尊厳を持ち、言葉使いや対応には十分注意を払うようにしている。また、それぞれの利用者に対しては、親しみを持った呼びかけや言葉遣いの方が意思の疎通が取りやすい場合もあり、柔軟な形で対応を行っている。	接遇マナー等の内部研修会開催やアンガーマネジメント等の外部研修会参加等で一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないよう職員間に周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の生活を基本として、傾聴も含め、本人が理解できるよう、解りやすく話す事に心掛けている。また、自己決定が難しい利用者には、ご家族やスタッフが代弁できるよう心掛けている。筆談による対応も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	各利用者の生活ペースに合わせた援助を行うよう心掛けており、利用者の希望により、起床時の調整や、居室配膳を行っている。ただ、現実的には共同生活を営む場でもあり、食事や洗濯、清掃等についてはある程度のスケジュールに合わせて生活してもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを含め身体の衛生面にも気を使い支援している。また、理容、美容のお店についてはホームにても斡旋（出張サービス）しているが、馴染みの美容室に行かれている方もいる。ネイル等希望される方には対応し喜ばれている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や盛り付け、食器拭きなどスタッフと一緒にやっている。嚥下困難等の場合はきざみ食やとろみ剤を添加して摂って頂いている。誕生日や行事の時は、希望を取り入れた食事を提供している。慢性疾患を把握して、味噌汁の味を薄めるなど、その方に適した味付けをしている。	回転寿司等での外食や中庭での流しソーメンなど一人ひとりの力や好みに合わせて食事を楽しむことが出来るよう工夫している。また、水分・食事、摂取カロリーを把握している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調等や状態により、種類や形状を変えたり、介助も行っている。なかなか水分が摂れず苦慮することがある、このような状態が続く場合は医師に相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で歯磨きができない利用者や義歯装着者については職員が対応している。また、必要によっては歯科協力医療機関等により、口腔内（歯、義歯含む）の状態を診てもらうようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの場所が認識できるよう、解かりやすく表示している。個人の排泄表をチェックする事でパターンを把握し、声かけ、誘導介助を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握して、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	系列病院の栄養士の献立による食事で、食物繊維や野菜の多いメニューとなっている。また、運動不足になりがちな生活のため、室内での体操や歩行運動を行っている。食事時、10時、15時の他、希望時に水分を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	職員の配置上、入浴については複数の職員が勤務している時間帯に利用してもらっている。また、浴槽の出入りが困難な方は、シャワー浴を行っている。本人の調子や様子を見ながら入浴するよう声掛けしている。	楽しく入浴ができるように一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、柔軟な支援を行っている。また、十勝川温泉の足湯に出かけるなど個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や睡眠は本人の自由に行っているが、昼夜逆転しないよう配慮している。また、睡眠状況を把握して、変化や異常があれば医療機関への相談を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関や調剤薬局から交付される説明書により薬剤の用法や用量、薬効等について確認し、安全な服薬支援を行っている。更に詳しい確認が必要な場合は、説明書、薬剤師や医師に問い合わせることにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味趣向は利用者により異なるが、中には趣味を持たない方もいるが、行事、レクリエーション、散歩、買い物等、生活に変化を持たせるような配慮を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	見守り等は必ず必要であるが、天候や気温を考慮し、ホームの付近の散歩や外出の支援を行っている。又、家族との交流会や行事に家族も一緒に参加して頂いて交流を図っている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や喫茶店訪問、帯広動物園見物や弁当持参で紅葉狩り、児童公園でのピクニックや十勝川温泉で足湯を楽しむなど普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各ご家族からお小遣いを預かっており、その都度、本人が欲するものや必要なものを購入している。また、スーパー等に外出した際は、好きな食べ物や用品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話を取り次いだり、電話をかけたりしている。また、全員ではないが、年賀状は自筆にて書いていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事には、飾りつけに季節感を心掛けたり、入居者さんの、作成した作品を掲示している。居室、共有部分の清掃にも十分配慮している。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また共用空間は、清潔感が漂い季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示などで生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分で利用者が居られる場所は食堂や居間の他に、それぞれの意思により居場所を決めているが、職員の声掛けにより孤独感に陥らないよう配慮している。また、精神状態により、違うユニットで過ごすことで、落ち着かれる方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具や、今まで使用していた物や写真等なじみの物を居室に配置し、居心地の良い空間を作っている。また、仏壇、仏具を居室に置かれている方もいる。	居室には、本人や家族と相談しながら使い慣れた家具や寝具、仏壇等が持ち込まれ本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体はバリアフリー構造でエレベーターを設置し、車椅子や歩行器での移動も可能となっている。また、廊下やトイレ、浴室には手摺を設置し、移動や使用の補助としている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600391		
法人名	社会医療法人 恵和会		
事業所名	グループホームかしわ 第2ユニット(2階)		
所在地	北海道帯広市西17条南1丁目5番地5号		
自己評価作成日	平成29年12月12日	評価結果市町村受理日	平成30年2月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosoCd=0194600391-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成30年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者個々の持ち合わせている能力を最大限に生かし介護にあたるとともに、認知症の改善や悪化防止、強いては介護度の改善に努めている。また、利用者自身がゆったりとした快適な生活が安全に送れるよう全職員で支援するとともに、利用者家族の方にも安心して頂けるような介護提供を目指している。

・医療法人が運営するグループホームであり、医療と介護の連携が密接にとれ、利用者の健康、体調管理の面で安心して頂ける。

・地域との交流を深める為に、利用者と職員が共に町内会行事に積極的に参加しています。また、ホームの行事にも地域の方に参加して頂いています。
・TQM活動に参加することで、利用者さんの満足度向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Ⅴ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の実践を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念の他にも、当ホームの支援目標に基づいて、利用者やご家族がどのような介護を望んでいるのか、また、どのような介護が必要なのかを見極め、その人にあった生活が営めるよう支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方から定期的に野菜や果物を頂く機会もある。 花見、野遊会、、廃品回収、運動会等町内の行事に利用者と共に参加している。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事に参加、交流する事で認知症介護の実態も見て頂くとともに、ホームの現状を聞かれた時には対応し、町内の方々にホームの見学や訪問を勧めている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の会議では、ホームの入居や退居状況、職員の異動、その他ホーム内での出来事を積極的に公表している。また、会議の議事録をご家族にも配布し、会議の内容を把握してもらっている。出された意見や要望については、実現に向けて対処している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	社会福祉協議会や民生委員が運営推進会議のメンバーを務めており、様々な意見や要望の聴取に心掛けている。また、サービス提供上に起こる疑義等についても、市介護保険課等と連絡を密にし、意見や指導を仰いでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない、今後も利用者本人の尊厳を重視し、身体拘束ゼロを基本とする。施錠については、ご家族、運営推進会議においてもご理解を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	如何なる理由があっても、身体的、精神的虐待はあってはならないと考えている。身体拘束も虐待の一部と考えており、高齢者虐待の研修会にも参加し、職員同士で注意しあえるようにしてる。法人の介護事業所合同の身体拘束廃止委員会に各ユニットから1名ずつ指名し参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人に関しては現在該当者はいないが、今後も事業や制度を学ぶ場を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定や重要事項説明書、入居契約書により、事前説明を行い、同意を得ている。また、入居に関する疑問や質問等についても尋ねるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等からの意見や要望については、謙虚に受け止め、検討している。直接口頭で言えない事もあると思われるので、投書箱を設置し、無記名で意見や苦情を受け付けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、ユニットリーダーを中心に、職員が意見や提案を受け入れる体制や雰囲気作りに心掛けている。また、ユニット会議の時などにも意見の聴取を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が働く意欲を長く持ち続けるために評価は必要なことである。法人は、介護職員処遇改善交付金等の制度を積極的に活用し、介護職の賃金アップ、キャリアパス制度等できる限りの環境・条件の改善整備を行い、活気あるホーム作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修や計画作成者研修、介護スタッフレベルアップ研修等、管理者はじめ一般職員に対しても様々な研修会や講演会に参加できるよう努めている。また、研修内容を全職員把握できるように、研修報告書を提出しユニット会議で発表を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の高齢者グループホーム協議会に加入し、様々な情報収集や研修会等へ参加している。また、同業者との交流(情報交換等)も行っており、他事業所の良いところ、優れている点を取り入れるよう心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族と打ち合わせし、ご本人も来施設いただき、要望を伺うが、利用者ご本人から要望等を聴取できないことも多々あり、センター方式を利用し、入居前にご家族に情報記入を依頼している、また、他の関係者にも情報を依頼している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	項目15と同様であるが、利用者ご本人の他にキーパーソンとなるご家族等から介護サービスを提供するにあたっての様々な要望や意見など、必ず聴取するようにしている、又、情報の共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時に重要な事は、利用者、ご家族が当該介護サービスや当ホームに対して、どのような介護を望んでいるのか聴取し見極める事が必要である。そのため、初期相談時には、管理者、介護支援専門員、計画作成担当者が必要としている介護を模索、検討している。また、医療連携等の他のサービスが必要か否かの判断も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何気ない介護のなかでも、職員と利用者が一緒に喜び、時には涙する場面もあり、それが認知症介護の素晴らしいところでもあり、職員も意義をもった介護に係われていると考える。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方にホームの生活状況や介護状況を知ってもらう為にも、ホームでの出来事を報告している。また、ご家族の都合が許せる限り来訪してもらったり、また、入浴拒否の強い方には、ご家族より声掛け、誘導をして頂くことで、安心感に繋がっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの友人や知人の訪問、電話、手紙等で馴染みの関係を継続している。また、社会活動が続けられる様、支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の生活やレクリエーション等を通じ、交流を深めてもらう機会を作ったり、声掛けを行っている、また、気の合う利用者、トラブルのある利用者を見極め、座席の配置や日常生活の中での声掛け等に気配りし、共同生活が営めるよう支援している。また、ユニットが違う入居者様同士でも、気の合う方がおられ短時間でも交流出来るよう日常的に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際に医療機関での長期治療や療養が必要とされ退居された方もいるが、その後の介護相談に応じる旨の説明を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時間の経過とともに利用者の要求や介護方法が変化すると思われるが、どのような介護が本人に必要なのか、ご家族と職員が相談しながら本人本位の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、以前、利用していたサービス事業所より情報提供を頂き、それぞれの情報を総合的に判断し、スタッフ間で共有し対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後しばらくは、これまで得られた心身や生活等の情報と照らし合わせ、実際の目で確認した現状とを比較し、総合的に状態を把握するよう努め随時又は定期的に必要であれば介護サービスの見直しを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを開催し、介護実施上の問題点や課題の検討を行っている。また、一担当者が詳細に利用者の把握を行う担当者制を設けており、介護計画の見直し時はご家族の要望、利用者本人と、各担当の意見を再確認し適切な介護サービスの提供に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに介護記録を作成している。これとは別に、申し送りノートを作成し、情報の共有化に努めている。介護計画の見直しについては職員全員で気づきや工夫などを提案し、見直しに活かしている。また、必要に応じてユニット間で情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを重要視し、本人の意向も取り入れながら家族の状況には柔軟な支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望のある利用者には訪問マッサージの対応、また、ホームでの行事等にボランティアの方による唄や踊りを楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を確認し、希望の病院をかかりつけ医としている。通院時には、日常の身体状態や生活情報を提供させて頂くなど関係構築に努めている。系列病院以外の医療機関の受診時は、主治医宛に文書で報告、相談を行い、必要時にはスタッフも同行している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携として、系列病院から看護師の派遣を受けている。日常において利用者の容態に変化が生じた場合は、看護師や主治医、又は関係する医師に報告、相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に当たってはご家族や医療機関と相談し以後の対応を協議している。利用者やご家族が安心して治療に専念できることを基本としており、退院し当ホームに戻る事が出来ると判断される場合は、3ヶ月の猶予期間を持って対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を制定し、ご家族にも文書にて説明している。重度化した場合や終末期においてはご本人はじめ、ご家族や主治医、協力医療機関と慎重に協議、対応している。現在の所、終末期をむかえた場合は、ご家族に了承の下、医師の判断で医療機関に入院(退居)している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対処法は、同事業所で年1回の研修会を行っている。また、緊急時マニュアルをスタッフの目のとどく所に掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通し、地域住民の方々の手助けが得られるようお願いしている。災害の種類や大きさにより、緊急連絡網にて召集がかけられる体制を取っている。年2回の避難訓練と防災自主点検を毎日実施し、災害に備えて、備蓄品も用意している。地域の避難場所も確認している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	倫理マニュアルを基にして尊厳を持ち、言葉使いや対応には十分注意を払うようにしている。また、それぞれの利用者に対しては、親しみを持った呼びかけや言葉遣いの方が意思の疎通が取りやすい場合もあり、柔軟な形で対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の生活を基本として、傾聴も含め、本人が理解できるよう、解りやすく話す事に心掛けている。また、自己決定が難しい利用者には、ご家族やスタッフが代弁できるよう心掛けている。筆談による対応も行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	各利用者の生活ペースに合わせた援助を行うよう心掛けており、利用者の希望により、起床時の調整や、居室配膳を行っている。ただ、現実的には共同生活を営む場でもあり、食事や洗濯、清掃等についてはある程度のスケジュールに合わせて生活してもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを含め身体の衛生面にも気を使い支援している。また、理容、美容のお店についてはホームにても斡旋(出張サービス)しているが、馴染みの美容室に行かれていた方もいる。ネイル等希望される方には対応し喜ばれている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や盛り付け、食器拭きなどスタッフと一緒にしている。嚥下困難等の場合はきざみ食やとろみ剤を添加して摂って頂いている。誕生日や行事の時は、希望を取り入れた食事を提供している。慢性疾患を把握して、味噌汁の味を薄めるなど、その方に適した味付けをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調等や状態により、種類や形状を変えたり、介助も行っている。なかなか水分が摂れず苦慮することがある、このような状態が続く場合は医師に相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で歯磨きができない利用者や義歯装着者については職員が対応している。また、必要によっては歯科協力医療機関等により、口腔内（歯、義歯含む）の状態を診てもらうようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの場所が認識できるよう、解かりやすく表示している。個人の排泄表をチェックする事でパターンを把握し、声かけ、誘導介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	系列病院の栄養士の献立による食事で、食物繊維や野菜の多いメニューとなっている。また、運動不足になりがちな生活のため、室内での体操や歩行運動を行っている。食事時、10時、15時の他、希望時に水分を提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	職員の配置上、入浴については複数の職員が勤務している時間帯に利用してもらっている。また、浴槽の出入りが困難な方は、シャワー浴を行っている。本人の調子や様子を見ながら入浴するよう声掛けしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や睡眠は本人の自由にしているが、昼夜逆転しないよう配慮している。また、睡眠状況を把握して、変化や異常があれば医療機関への相談を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関や調剤薬局から交付される説明書により薬剤の用法や用量、薬効等について確認し、安全な服薬支援を行っている。更に詳しい確認が必要な場合は、説明書、薬剤師や医師に問い合わせることにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味趣向は利用者により異なるが、中には趣味を持たない方もいるが、行事、レクリエーション、散歩、買い物等、生活に変化を持たせるような配慮を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	見守り等は必ず必要であるが、天候や気温を考慮し、ホームの付近の散歩や外出の支援を行っている。又、家族との交流会や行事に家族も一緒に参加して頂いて交流を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各ご家族からお小遣いを預かっており、その都度、本人が欲するものや必要なものを購入している。また、スーパー等に外出した際は、好きな食べ物や用品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話を取り次いだり、電話をかけたりしている。また、全員ではないが、年賀状は自筆にて書いていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの行事には、飾りつけに季節感を心掛けたり、入居者さんの、作成した作品を掲示している。居室、共有部分の清掃にも十分配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分で利用者が居られる場所は食堂や居間の他に、それぞれの意思により居場所を決めているが、職員の声掛けにより孤独感に陥らないよう配慮している。また、精神状態により、違うユニットで過ごすことで、落ち着かれる方もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具や、今まで使用していた物や写真等なじみの物を居室に配置し、居心地の良い空間を作っている。また、仏壇、仏具を居室に置かれている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体はバリアフリー構造でエレベーターを設置し、車椅子や歩行器での移動も可能となっている。また、廊下やトイレ、浴室には手摺を設置し、移動や使用の補助としている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームかしわ
作成日：平成 30 年 2月 15 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に 要する期間
1	35	防災訓練は年2回(昼、夜)を想定して実施しているが、近隣住民とは、明確な協力関係が構築されていない。	災害時の対応の見直し。 町内会や近隣住民との協力体制の再構築を行う。	災害を想定した避難訓練を、消防署、運営推進委員に参加して頂き、地域住民の方々の協力体制を築く。	6ヶ月
2	14	職員のレベルアップの為に同施設との交流を行う。	同施設との交換実習を行う。	当法人内の事業所との交流及び体験実習。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。
注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。